

## 令和5年度総務文教委員会行政視察報告書

【視察日】 令和5年10月24日（火）～26日（木）

【視察地及び概要】 ○長野県北安曇郡白馬村

白馬村は、長野県の北西部に位置する北安曇郡の村で、北アルプスの麓にあり、冬はスキー、夏は登山の観光客が訪れ、避暑地として知られる。

単体のスキー場としては国内最大規模の八方尾根スキー場があり長野オリンピックの会場にもなった。

面積は189.36㎢、総人口は約8,300人で、近年、外国からの移住者が増加し「外国人との共生」と「世界水準の観光地」を目指す村である。

○長野県上高井郡小布施町

小布施町は、長野県の北東に位置する町で、長野県内で最も面積の小さい自治体である。

葛飾北斎をはじめとする歴史遺産を活かした町づくりを行っており、北信濃地域有数の観光地として認知度も高まっている。

面積は19㎢、総人口約は11,000人で、特産の栗を使ったお菓子やおこわは全国的にも有名な特産品の一つである。

【参加者】

委員長：土屋 仁、副委員長：天野美香

委員：江田邦明、大西將由、柏谷祐也、渡邊照志  
永井達彦（随員職員）

【視察先及び目的】

- ①『一般財団法人白馬インターナショナルスクール』  
下田市グローバルCITYプロジェクトの教育方針に基づく、持続可能な教育事業の誘致について
- ②『白馬村』  
集落支援員導入の体制と今後の課題について
- ③『小布施町立図書館まちとしょテラス』  
図書館の建設と取り組みについて

【視察報告】

①『一般財団法人白馬インターナショナルスクール』

(1) 開校の経過

代表理事である草本朋子氏が白馬村の自然環境に魅了され2009年に移住し、その後、再編統合の対象となっていた、長野県立白馬高校の魅力化検討委員会に参画した。

白馬高校は、特色ある人材育成のため、普通科に加え、新たに国際観光科を設置し、存続することとなり、国際観光科は全国募集を開始し、県外からも生徒が集まる活気にあふれた高校となった。

草本理事は、白馬高校魅力化検討委員会に参画する中で、白馬に英語で教育を提供する学校があれば、全国募集のみならず世界募集できる学校となるのではない



地域貢献人材の養成とともに、今後の教育方針策定の重要な視点として考えられる。

白馬インターナショナルスクールの教育理念は、『教育は地方創生の鍵』とし、良い教育を提供すれば、その地で教育を受けた人が地元で活躍するという好循環につながるという考え方である。加えて、地域との交流・生徒間の連携、自然と共有することも大切にしている。下田市においても豊かな自然と誇れる歴史・文化を大切にし、子供たちが帰って来たいと思える下田市らしい教育の展開を実現する重要性を感じた。

白馬インターナショナルスクールの開校にあたっては、施設整備面での苦労も多く、行政等の支援を望む質疑への回答があった。公共施設の統廃合等により用途不要となった施設の利活用にあたって、下田市においてもインターナショナルスクールの誘致を検討されたい。

## ②『白馬村集落支援員制度』

### (1) 取り組み内容

- ・人口減少に伴い、区の担い手により、各課とも環境整備が以前より困難になったことから、平成 29 年度より導入。

### ○白馬村集落支援員の概要

担当課	年代	性別	出身地	前職	活動内容
農政課	70代	男性	村内	索道会社 (区長経験者)	農道や農業用水路、山林等の草刈り、支障木撤去、ナラ枯れ処理、有害鳥獣追払電気柵設置、緩衝帯整備等
	40代	男性	静岡県	団体職員 (地域おこし協力隊)	
	60代	男性	村内	役場職員 (区長経験者)	
総務課	60代	男性	千葉県	県職員、行政書士	認可地縁団体の事務、行政区への支援等
建設課	40代	男性	村内		沿線の除草、簡易補修、集落内の除雪作業や凍結防止剤散布等

- ・採用にあたっては、全国的な建設労働者の不足も追い打ちをかけていること、重機を扱うこともあり資格、免許が必要であり、応募者がいない現状で、地域の事情や地理に精通している人材が求められるため、各地域と相談しながら進めている。
- ・支援員の身分は会計年度任用職員であり、年間予算は、建設課約 800 万円、農政課約 600 万円。
- ・集落懇談会において地区担当職員と集落支援員が同席し、共通の認識を持つようにし地区担当職員が地域の課題や要望を受け集落支援員に伝え対応している。

- ・農政課支援員は全集落の支援をしているということではなく、集落から要望があった場合に柔軟に対応している。要望は小規模集落が多く、今年はクマやサル等の野生動物の発生が多かったため、村から地区や地権者にアプローチし、管理されていない藪草刈りや枝払い等の緩衝帯整備も行った。事案により全行政区への支援もあるが、個別行政区への支援も行っている。

## (2) 考察

集落支援員は、地域の実情に詳しく集落対策を推進する人材を市町村が委嘱する制度で、国から特別交付税により人件費等の必要経費が手当され、集落支援員1人当たり350万円が上限で、自治会長などを兼務する場合（兼任）は1人あたり40万円とされている。白馬村では、こうした支援員を各課・区ごとに配置し、きめ細やかな集落ごとの巡回・点検と、狭小道路をはじめ住民の手の届かない社会資本設備の維持を行うことで、住環境の維持向上に取り組んでいる。

白馬村では、集落支援員制度が、実際に活用され村の維持管理に役立てられており、下田市においても行政・区・市民が円滑に安心して住めるまちづくりのため、同制度導入の検討が必要である。

## ③『小布施町立図書館まちとしょテラソ』

### (1) 取り組み内容

- ・平成18年策定の「第四次小布施町総合計画」後期基本計画の重点施策として、「図書館の整備・充実と情報サロンとしての活用」が示され、町民及び職員による「図書館のあり方検討会」が発足し、誰にでも楽しめる図書館を目指して検討が始まった。
- ・平成19年には、「職員プロジェクトチーム」が発足し、先進事例の収集や学習会の開催、町民への参加呼びかけなどを行い、基本構想案を作成し、「学び、子育て、交流、情報発信」を四つの柱とし「交流と創造を楽しむ文化の拠点」を運営の理念として建設に向け動き出し、その後「図書館建設運営委員会」を公募により組織し、設計案に対する要望、図書館システム、開館後の運営について検討を重ね、平成21年7月に幼稚園跡地に開館した。
- ・総事業費 395,640千円（財源：国庫補助金82,122千円、一般財源313,518千円）
- ・構造及び面積 地上1階建、延床面積998.53㎡
- ・開館時間 平日：午前9時～午後7時、土日・祝日：午前9時～午後5時
- ・職員数 館長1名（全国公募25名の応募）、嘱託職員 主任司書1名、会計年度任用職員7名（うち司書2名）
- ・蔵書数 開架 約60,000冊、閉架 約38,000冊
- ・登録者数 約12,500名（小布施町民は4割弱）
- ・本と人をつなぐ学びの場づくり
  - ◇テラソ百選・毎月テーマを決め、スタッフの手作りのポップを添え、開架を含めた書籍を100冊程度展示している。
  - ◇本の福袋「読本来福」・正月企画を展開している。
  - ◇スタッフお薦めコーナー・簡単な推薦文をつけて展示している。
  - ◇追悼コーナー
  - ◇図書館には珍しくカフェコーナーも設置されている。

- ・本を介して人と人をつなぐ交流の場づくり
  - ◇図書館まつり：7月下旬の開館記念日、10月下旬の読書週間にあわせて開催。
  - ◇読み聞かせ、創作人形劇、テラソ de シネマ、など各種ワークショップを開催している。
- ・子育ての場づくり
  - ◇月2回「お父さんの読み聞かせ」「クリスマスおはなし会」など開催している。
- ・創作活動・表現活動を応援する場
  - ◇創作童話の公募（全国・海外からも応募あり）、絵画などの展示の活動を行っている。
- ・まちじゅう図書館
  - ◇開館から2年後の平成23年から、オーナー所蔵の本を並べることから始め10館でスタートし、現在16館で展開している。

## (2) 考察

まちとしょテラソは、小布施駅近くの役場、小学校と隣接している。また、子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすく考えられ、授乳スペースや障がいをもつ方にも心遣いがあり多くの工夫がされていた。休館日には、スタッフが本の整理やコーナーづくりを行っている。

まちとしょテラソでは、行政と町民で作られたやさしい図書館のあり方を感じた。“図書館”は、今や人をつなぐ“居場所”であり、下田市においても、図書館の検討は取り組むべき課題であり、市民の声が反映された図書館建設であってほしい。

【視察状況】

① 『一般財団法人白馬インターナショナルスクール』



【生徒による授業内容等のプレゼン】



【ペンションを活用した校舎】

② 『白馬村集落支援員制度』

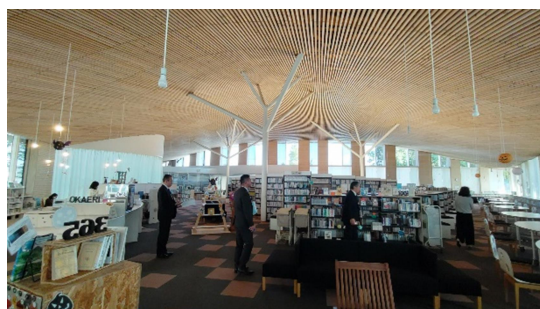


【議会室にて集落支援員制度の説明】



【役場玄関にて白馬村議会議長と共に】

③ 『小布施町立図書館まちとしょテラス』



【壁のない広々とした室内】



【味噌屋に併設のまちじゅう図書館】